

2024年度ICT利用による教育改善研究発表会  
受賞者決定

## 1. 本発表会の趣旨

本発表会は、全国の国公私立大学・短期大学教職員を対象に、教育改善のためのICT活用によるFD(ファカルティ・ディベロップメント)活動の振興普及を促進・奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質的向上をはかることを目的としています。優れた発表に対しては、文部科学大臣賞(最優秀賞)、私立大学情報教育協会賞(優秀賞)、奨励賞を授与し、その教育業績を顕彰するとともに、本協会ホームページに掲載、公開しています。本発表会は今年度で32回目となり、これまでに文部科学大臣賞5件、私立大学教育協会賞34件、奨励賞54件、佳作4点を顕彰してきました。なお、本発表会では毎年度、文部科学省の後援と文部科学大臣賞の交付が認められています。

## 2. 選考方法および結果

2024年度のICT利用による教育改善研究発表会は、オンラインによる発表会を開催し、発表者全員に発表映像の提出を事前に求め、8月23日に会場から27件の研究発表を配信するとともに、質疑は各発表者からオンラインで実施しました。発表会終了後、1次選考を行い、2次選考の対象5件を選考しました。発表会の視聴参加者は、発表者を除き85名(46大学・短期大学、賛助会員3社)でした。その後、9月21日に2次選考を行い、1次選考の発表収録ビデオ及び発表会論文を精査して、「私立大学情報教育協会賞(優秀賞)」1件、「奨励賞」1件の授賞を決定しました。表彰式は、11月29日(金)に本協会の第41回臨時総会の冒頭に行い、文部科学省専門教育課の森企画官による来賓挨拶が行われ、引き続き本協会の角田和巳担当理事による発表会の概要説明と本年度結果報告の後、向殿政男会長から受賞者に表彰楯の授与を行いました。受賞者は次の通りです。

## 2024年度ICT利用による教育改善研究発表会 受賞者

## 私立大学情報教育協会賞

■ 「地域課題解決型AI教育プログラムにおける  
産学連携PBLの効果」

久留米工業大学 小田まり子氏、河野 央氏、  
春田大河氏、八坂亮祐氏



小田まり子 氏



河野 央 氏



春田大河 氏



八坂亮祐 氏



左から文部科学省専門教育課 森企画官、  
受賞者の久留米工業大学 小田まり子氏、  
明治学院大学 関口幸代氏、本協会 向殿会長

## &lt;受賞理由&gt;

地域課題解決型PBLを活性化するために、時間と場所の制約を超えた交流の場として、メタバース・ラボにPBL連携企業・自治体のラボを設け、異分野・異年齢の学内外の学生、教員、地域企業・自治体が一体となって、互いの得意分野を生かしてAI技術を用いて課題解決の実践に取り組んでいる産学連携PBLの理想的な事例である。仮想空間に共創拠点をおくことにより、地域創生を希求する関係者がワンチームとなり、知識・技術や知見、発想を組み合わせることを可能にする創発的なPBLは、あらゆる分野での応用・展開が期待されることから、私立大学情報教育協会賞を授与するに相応しいとした。

## 奨励賞

■ 「海外協定校連携科目群の構築による国際教育推進: Virtual Study Mobilityで広げる学びの場」  
明治学院大学 関口 幸代 氏

## &lt;受賞理由&gt;

協定校のハワイ大学(UHM)と5年にわたる連携科目群の交流があり、現地学生と共に授業を受講する協働教育を行っている。2023年度以降は日本側の履修者のみが参加する形からLMSとZoomを活用し、海外協定校における教員の指導を直接受けることができ、現地の学生とオンラインライブ授業を受講する仮想留学・体験型学習環境の構築を目指した事例である。日本学生用の授業ばかりでなく、ハワイの学生が参加する専門科目も履修できるようになっており、両国間での学生交流も可能で、留学体験の一つのモデルとしても評価でき、今後の展開にも大いに期待できる。